

ラグビーを思う

NPO法人グリーンスポーツ鳥取 代表 ニール スミス



9月半ばから10月末まで母国ニュージーランドでラグビーワールドカップ2011が開催されています。皆様がこれをお読みになる時にはすでに優勝が決まっているのですが執筆の時は決勝戦の2日前です。さて、常に世界のランクを誇示し続ける母国の代表チーム「オールブラックス」が決勝進出を決めました。実はこの我が「オールブラックス」は1987年開催の初代大会以来、優勝から遠ざかっています。

ラグビーの話をしてします。大昔は古代ギリシア、ローマ帝国時代にラグビーに似た遊びが存在していたと言われているがイギリスでは中世時代(6世紀前後)から村同士が豚の膀胱を奪い合うイベントから始まったとされています。1700年代半ばからボールを持ってパスするのは許されていましたが、持って走っては行けませんでした。やがて、1820年頃からはボールを持って走っていいことになり、段階的に規則を導入し競技に発展した。場所はRugby School(ラグビースクール)という名門男子高等学校が文字通り原型を作り、スポーツの名前が「ラグビー」となったのです。この学校でウィリアム・ウェブ・エリス(William Webb Ellis)という名前の少年が1823年に試合中にボールを拾って走り出したことが近代ラグビーの始まりとされ、その伝説にちなんで4年に一度開催されるワールドカップの優勝杯はWilliam Webb Ellis Trophyと名付けられました。

左の絵では良く分からないが最近の同校の写真では全面天然芝生の校庭がよく見えます。



ラグビー高校 1859年頃



ラグビー高校 2006年

ラグビーという競技は今も昔も芝生の上で親しまれて来ました。ローマ帝国時代12世紀に医者でもあり哲学者でもあったガレヌス氏(Galenus)が元祖ラグビーとも言われているハーパスタム(Harpastum)というボールゲームについて「真の魅力は体の全ての部分や筋肉を使うこと、時間が掛からないこと、費用も掛からないこと」と綴りました。

母国ニュージーランドの少年ラグビーを見るとこの言葉が今でも生きていような気がする。ひょっとして遊びのために物を蹴る、投げる、受け取るという本能は人間が二本足で歩ける様になった時から存在しているかもしれない。

この少年達もワールドカップで活躍するラグビー選手を見る度に思い浮かぶのはアップル社の創設者故スティーブ・ジョブズ氏の名言"Stay Hungry, Stay Foolish"である。この意味を「欲(夢)を持ち続ける、遊び心を持ち続ける」と私なりに解釈しています。そして僕は今でもそのような人生を歩んでいます。



芝生化レポート

久松公園(鳥取市) 報告:(社)鳥取青年会議所

(社)鳥取青年会議所では、因幡地域の保育園、幼稚園の全園芝生化を目指し、「鳥取方式®による全園芝生化大作戦 in 久松公園」を開催いたしました。

これは、既に2009年度に当青年会議所が中心となって芝生化を行った久松公園を活用し、まだ芝生化が完了していない保育園・幼稚園の関係者並びに保護者を対象にセミナーを開催し、さらに、苗植え、維持管理などを体験することにより芝生化の意義、メリットをご理解いただくと同時に芝生化後の維持管理等に対する不安を払しょくしていただき、最終的には来年度以降園庭を芝生化することに対してご理解を頂戴することを目的として行いました。



まず始めに、県立博物館講堂において、鳥取方式®の芝生化の提唱者でもあるニール・スミスさんの講演などを聞きました。

その後、3班に分かれて芝生の苗植え、維持管理体験、久松保育園の現地見学を行いました。苗植えには鳥取市の竹内市長も駆けつけて下さいました。



今回の事業で鳥取方式®の芝生化について基礎知識から苗植え、維持管理まですべてを楽しく体験いただきました。



鳥取方式®の芝生 維持管理カレンダー

ティフトンの芝生(冬シバを9月下旬にオーバーシーディングした場合)

	10月		11月		12月		1月		2月		3月	
	芝刈り	施肥※	芝刈り	施肥※	芝刈り	施肥※	芝刈り	施肥※	芝刈り	施肥※	芝刈り	施肥※
第1週		1回 (30kg)		1回 (30kg)		1回 (20kg)		1回 (20kg)		なし		1回 (20kg)
第2週			1回				1回					
第3週	1回 (5cm)								1回			
第4週	1回		1回				1回					

※ 施肥は1,000㎡あたりの標準散布量(14-14-14%化成肥料)

§ 管理のポイント §

10月(冬シバ播種直後の養生と最初の芝刈り)

冬シバ(インターミディエイトライグラス)の種子は一粒2mgで非常に小さく、また発芽直後の幼植物は柔らかく踏圧や擦り切れに弱いので、播種後少なくとも1カ月間は養生期間として利用を減らす。

播種後しばらくは芝刈りを行わず、3週間経過して葉が2枚~3枚出たところで、刈り刃をやや高め(地上5cm)に設定して芝刈りを行う。

順調に冬シバを生長させて利用に耐える芝生に育てるために、施肥と散水は十分に行う。芝刈りの間隔が長くなる時期なので、この頃に刈り刃の研磨・交換と芝刈り機の点検(代理店に依頼)をする。

11月~2月(低温期の冬シバの管理)

気温の低下に伴って冬シバの生長も遅くなるので、芝刈りの間隔はそれに合わせて長くしてよいが、刈り刃の高さは常時一定(地上4cm)とする。施肥は原則として月1回実施し、生育量が小さくなる冬は施肥量を少なくし、真冬の2月は施肥を省いてもよい。11月以降の散水は原則として不要。(但し、表日本で特に乾燥する場合は適宜散水する)。

3月(冬シバの生育再開後の管理)

3月になると冬シバの生育が再び活発になるので、芝刈り(地上4cm)を再開する。2か月近く芝刈りをしない場合には、場所によって芝生の長さが大きく異なることがあるので、長く伸びている部分は必ず芝刈りを行う。降雨や朝露で湿っている場合でも、回収せずに刈り落しでもよいから刈り遅れしないように芝刈りし、地際まで光が当たるように心がける。



こどもたちが
みんな元気に!

前回レポートした富桑保育園です。園長先生にその後の様子について伺いました。

「子どもたちは毎日芝生の上ではだしで走り回って遊んでいます。病気でお休みする子が減りました。」とのこと。

6月4日に親子でポット苗を移植後、芝生は順調に生育し、7月下旬にはほぼ一面が芝生で覆われました。

9月10日には秋晴れの下、芝生化後初めての運動会が開催されました。初めて芝の上でゆったりと一日を過ごした保護者も多く、連絡ノートには「芝生の上で気持ちよかった」、「芝生にして本当に良かった」との声が多く寄せられたそうです。



先日は、地域のお年寄りがグラウンドゴルフ大会の会場に使用され、御礼に芝刈りをしてくださったとか。芝生でまた一つ新たなコミュニティが生まれてくる。そんな予感がします。

No Grass No Future!

一緒に芝生化に取り組む仲間である会員を募集しています!!



- グリーンスポーツ鳥取が会員の疑問に直接回答!
- 会員間で事例を共有!
- 掲示板で全国の会員間の情報交換・交流!

お申し込みは下記URLへ

■ お問い合わせ先

鳥取方式の芝生化全国サポートネットワーク事務局(鳥取県未来づくり推進局鳥取力創造課内)

電話: 0857-26-7070 E-mail: office@tottoristyle-shibafu.org

URL: <http://www.tottoristyle-shibafu.org/network/>

※「鳥取方式®」はNPO法人グリーンスポーツ鳥取の登録商標です